

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 折尾東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

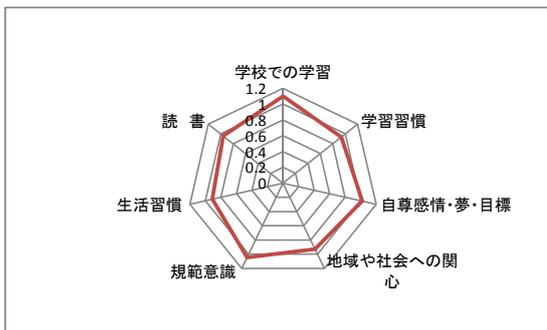
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っているものの、昨年度より向上している。 ・「話し合いの様子から中心を捉える」力に課題がある。 ・無回答率は下がり、根気強く、課題に取り組む姿勢が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	・日常生活の経験が少ない問題に、課題がある。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っているものの、スピーチや話し合いに関する問題については、全国・県を上回っている。 ・「(相手の話から)目的や意図を読み取り、書く」力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・話の構成を工夫して話すことができるなど、スピーチメモのよさを捉える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く問題の正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をわずかに下回っているものの、数と計算の領域については全国・県を上回る正答率を得られた。 ・「二次元表の理解」に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解しているかを問う問題では、正答率が大変高かった。	
	努力が必要な問題	・資料を用いて、数を求める問題は正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っているものの、苦手としている記述式の問題について、全国・県を上回る正答率を得られた問題もあった。無回答率が高いことが課題として残った。 ・「割合」や「表やグラフの理解」について、正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する問題については全国・県を上回る正答率を得られた。	
	努力が必要な問題	・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題は正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問では 肯定的回答が高く、自己肯定感・自尊感情をもつことができていると考えられる。 ・「授業では課題に対して自ら考え自分から取り組んでいたと思いますか」という質問では昨年より肯定的回答が高くなってきた。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と答えた児童が今年も全国平均を上回っていた。話し合うことの楽しさや良さを実感させる授業に、取り組んでいる成果がでている。 ・「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問には、肯定的回答が全国平均を下回っていた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業の中で、考え、表現する活動を確保するように努める。 ・「授業改善シート」を効果的に活用し、「1単位時間の中に『話し合う活動』と『書く活動』」を意識するようにしていく。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習について、「折戻っ子スタンダード家庭編」に示されている、低学年15分、中学年30分、高学年45分以上の学習時間の習慣が定着するように、学年通信・学校だより等で引き続き家庭に周知していく。 ・テレビゲームをする時間、スマホなどでネットに触れる時間が全国よりも多いため、保護者に懇談会や学校通信等で周知していく。
--